

## 古文 練習問題 ⑧ 『枕草子』

次の『枕草子』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) うつくしきもの。瓜にかきたるちごの顔。すずめの子の、(2) ねず鳴きするに躍り来る。二つ三つばかりなるちごの、急ぎてはひ来る道に、いと小さきちりのありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなるおよびにとらへて、(3) 大人ごとに見せたる、いとうつくし。頭は尼そぎなるちごの、目に髪の毛の覆へるを、かきはやらで、うちかたぶきて物など見たるも、うつくし。(清少納言『枕草子』第四百十五段)

一。傍線(1)うつくしきの意味を書きなさい。

( ) ( )

二、(2) ねず鳴きするに躍り来るついて、(ア)「ねず鳴きする」の主語と(イ)「躍り来る」の主語をそれぞれかきなさい。

(ア) ( ) (イ) ( )

三、傍線(3) 大人ごとに見せたるについて、誰が何を見せたのか、文中の言葉を抜き出し、( )の「中」に書きなさい。

( ) (が) ( ) (を)見せた。

答え

一、かわいらしい

二、(ア)作者 (イ)すずめの子

三、(二)つ三つばかりなるちづ(が)いと小さきちり(を見せた)。

### 現代語訳

かわいらしいもの。瓜にかいてある幼い子どもの顔。すずめの子が、(人が)ねずみの鳴きまねをすると飛び跳ねてやって来る(様子)。2、3歳ぐらいの子どもが、急いではってくる途中に、ほんの小さなほこりがあったのを目ざとく見つけて、とても愛らしい指でつまんで、大人などに見せた(様子)。髪を尻のように肩の高さで切りそろえた髪型である子どもが、目に髪がかぶさっているのをかきのけることもしないで、首をかしげて何かを見ているのなども、かわいらしい。